⟨彼女の名前は 近藤麻美⟩

⟨地元の市役所に勤める33歳⟩

⟨仕事帰りに幼なじみの なっちと みーぽんとごはんを食べたり…⟩

⟨カラオケに行ったりと平凡な生活を 送っていたのですが…⟩

(麻美) ⟨え？ 死んだ…？⟩

⟨そこで告げられた来世は…⟩

(受付係) オオアリクイ｡

(麻美) 人間じゃないっていうこと…？

(受付係) 必要な徳が 不足している可能性は高い…｡

(麻美) それは何とかならないんですか？

近藤麻美様として 同じ人生を やり直すことでしたら可能ですね｡

⟨こうして 麻美の人生２周目がスタート⟩

⟨１周目では気付かなかった玲奈ちゃんのパパと洋子先生の不倫をポケベルを使って見事阻止し 徳をゲットしました⟩

(麻美) そんでね 何か窓口みたいなとこで次 何に生まれ変わるか 言われんだけど私 次 グアテマラ南東部の オオアリクイでさ｡

(美穂) オオアリクイ？

(夏希) 何でオオアリクイなの？

(麻美) 分かんないけど多分 前世の行いが 良くなかったからじゃない？

(美穂) あーちん 何か悪いことしたっけ？

(麻美) 別に犯罪とかは やってないんだけどね｡

(美穂) だよね｡

えっ あーちんでダメなら うちらもヤバくない？

(夏希) ヤバい｡

めっちゃ心当たりあるもん｡

(美穂) だよね｡

私さ 中学の時さ カンニングとかしてたんだけど｡

(麻美) それ だいぶマイナスだね｡

(美穂) うわ｡

(夏希) 私さ ごはん屋さんで 大盛り頼んどいて大盛り分 残したこと何回もある｡

(美穂) 何それ 最悪じゃん｡

(麻美) 何で そんなことしたの？

(夏希) いや 何か初めて行ったお店で 大盛り頼んだら通常のやつが大盛りぐらいで 大盛りがメガ盛りぐらいあってさ｡

(麻美) そのパターンね｡

(美穂) 大盛りの基準統一してほしいよね｡

(麻美) ３人ともオオアリクイ確定じゃん｡

(美穂) え～｡

(夏希) でもさ ３人で一緒にｵｵｱﾘｸｲに なったら楽しそうじゃない？

(美穂) ヤダよ オオアリクイだよ？

(夏希) いいじゃん｡

何かさ おいしいアリ見つけたから 一緒に食べに行こうよ…とか言ってさ｡

(麻美) 人気のアリスポットね｡

(美穂) 超混んでそうじゃない？

(夏希) でも 超おいしいアリなの｡

(麻美) 口の中 入れた瞬間 溶けちゃう系だ｡

(夏希) そう ふわっふわの｡

(美穂) そんなアリいる？

(福田) うぅ… うあ！

(夏希) ごめんね 福ちゃん 重いでしょ｡

(福田) ううん 大丈夫｡

(麻美) 次までに３人とも痩せとくから｡

(福田) 分かった！

次 あんの？

(美穂) あれ何？

(麻美) え？

(美穂) あれ｡

(サイレン)

(麻美) ヤバい 警察だ！

(夏希) えっ マジで？ どうしよう｡

(美穂) どうすんの？

>> よし 急ごう！

(麻美) 急いで お願い｡

♪～ >> “ﾎﾟｹﾍﾞﾙが鳴らなくて”

(夏希) ねぇねぇ これって 捕まったらどうなるの？

♪～ >> “ﾎﾟｹﾍﾞﾙが鳴らなくて”

(美穂) オオアリクイにされんだよ｡

(夏希) マジで？ 絶対 嫌なんだけど｡

(麻美) あっ ヤバい 来た！

(夏希) え～ マジで!?

(福田) あ～ 来た！

(麻美) 頑張って 頑張って｡

♪～ ポケベルが鳴らなくて

♪～ 恋が待ちぼうけしてる

♪～ ねえ あなたは 今 どこで

♪～ 何をしてるの？

♪～ 気まぐれで構わない

♪～ 早く 私 呼び出して……

♪～ そう 未来の不安より

♪～ 今が 淋しい

♪～ ポケベルが鳴らなくて

♪～ 恋が待ちぼうけしてる

♪～ 私の方から

♪～ 電話できない

♪～ 現実より

♪～ 愛している

(目覚まし時計のベル)

(麻美) ⟨いまだに １周目と ごっちゃになった夢は見るけど２周目の人生にも すっかり慣れ…⟩

📺 ズームイン!!

📺♪～

(寛) 今日 何時間目まであるの？

(麻美) えっと ４時間目｡

⟨私は予定通り 小学校に入学した⟩

⟨そして 遥も２歳になり…⟩

いってきま～す！

⟨わが家は 一軒家に引っ越した⟩

⟨正直 ２周目はもっと劇的に違う 人生になるイメージだったけど今のところ 大筋はほとんど一緒⟩

(麻美) ⟨もちろん 徳は小まめに積んでいる⟩

♪～

おはよう。 >> おはよう｡

今日の体育やだな～。

(静香) あーちんのたまごっち まめっちになったよ｡

(麻美) ホント？ ありがとう！

あっ ホントだ かわいい｡ >> でしょ～｡

(麻美) ⟨１周目では たまごっちが どこも売り切れでバッタモンを持っていたけれど今回はブームになる前に 一番レアな白を購入した⟩

ねぇ しーちゃん これ どれくらい生きるのかな？

まめっちだから ちゃんと育てれば 20歳ぐらいまで生きると思うよ｡

(麻美) へぇ～ すごいね｡

⟨ちなみに しーちゃんは たまごっち育成の名人なので私は しーちゃんに預けて 育ててもらっていた⟩

じゃあ 引き続き お願いします｡ >> は～い！

(麻美) ⟨馬主のスタンス⟩

⟨ところで ２周目で 変わったことといえば…⟩

>> おはよう！

(静香:麻美) おはよう！

今日 “HEY！HEY！HEY！”のゲスト SPEEDだよね｡

(麻美) ⟨１周目では引っ越した 玲奈ちゃんが同じ小学校に入学したこと⟩

⟨もう１つ大きく違うのは 私の学力⟩

⟨大人の頭脳を持つ私にとって 小学校の勉強は笑ってしまうくらい簡単だった⟩

(児童たち) ５×５＝25

(静香) ねぇ 福ちゃん 逆上がり やってみてよ｡

(麻美) ⟨ちなみにあれが 後に結婚して離婚する福ちゃんと しーちゃん⟩

〔これ ちょっと苦手なんだよね〕

(麻美) ⟨今の私には どうしてあげることもできない⟩

(夏希) あーちん いた｡

(美穂) 一緒に帰ろう｡

(麻美) うん 帰ろう｡

⟨なっちや みーぽんとも 予定通り 仲良くなった⟩

(夏希) 真里ちゃん バイバイ｡

(真里) バイバイ｡

(３人) バイバイ｡

(夏希) 今日 ドラマクラブやる？

(麻美) あっ そうだね｡

(美穂) やろう やろう｡

(夏希) じゃあ帰ったら 小松商店 集合ね｡

(麻美:美穂) ＯＫ！

(美穂)“ビーチボーイズ”良かったよね｡

(夏希) 反町 カッコいいよね｡

(麻美) ⟨ドラマクラブとは 最近 見ているドラマのことを放課後に語り合うクラブのこと⟩

⟨とはいっても 正式なクラブ活動ではなく３人で勝手に言っているだけ⟩

(夏希) でもさ やっぱり 今期は “ナースのお仕事”じゃない？

(麻美) まぁ そうなるよね～｡

(美穂) 頭一つ 抜けてるもんね｡

(夏希) やっぱさ ２人の掛け合いがいいよね｡

(美穂) でも正直 私は“１”のほうが 好きだったんだよね｡

(夏希) そう？ 私 今のも好きだよ｡

(美穂) 私も好きだけどどっちかっていうと “１”だね｡

(麻美) 確かに｡

“１”のほうが カタルシスあったよね｡

(美穂) そう！

(麻美) ⟨ほとんどが テレビ雑誌の受け売りだけどこうやって評論家気取りで 喋ることが楽しかった⟩

(夏希) ヤマト行かない？

(美穂) いいよ｡

(麻美) なっち何見るの？

(夏希) 私ね シール見たいんだよね｡

(美穂) 私も見たい｡

(麻美) 私も｡

(美穂) 新しいの入ってるかな？

(夏希) 入ってるといいよね｡

(麻美) ⟨小学校低学年の頃は シール帳にシールを貼ったり交換するのが流行っていた⟩

(夏希) かわいい キラキラしてる｡

(麻美) ⟨私たちにとって シール交換は交渉の場⟩

⟨とはいえ 何でもかんでも 交換できるわけではない⟩

⟨シールは それぞれ 価値の重さが違う⟩

みーぽんのそのシールかわいいね｡

(夏希) ホントだ｡

ハムスターのタイルシールだ 超かわいい｡

(美穂) これ かわいいよね｡

(麻美:夏希) うん｡

(美穂) この間 ジャスコに行った時 買ったんだよね｡

(麻美) いいなぁ｡

⟨特に タイルシールは人気があり最も価値の高いものと されている⟩

⟨分厚くて 貼るとシール帳が 膨らむのもいい⟩

みーぽん 何かと交換して｡

(夏希) 私も｡

(美穂) いいよ 何と交換する？

(麻美) ⟨交渉開始⟩

⟨当然 レアシールと交換するには 同じくらい価値のあるレアシールを 差し出さなければいけない⟩

⟨この中で みーぽんのタイルシールと同等の価値がありそうなのはこのキラキラシールか フェルトシール⟩

⟨ただ フェルトシールは レート以上に私自身が気に入っていて 持っている数も少ないのでできれば放出したくない⟩

⟨となると キラキラか…⟩

⟨もしくは 人気のキャラクターものか⟩

⟨いや 弱いか…⟩

(夏希) じゃあ このプリンとドーナツと ハンバーガーの３枚でどう？

(麻美) ⟨そう レアシール１枚に対し普通のシールを３枚 差し出す という交渉術もある⟩

(美穂) いいよ｡

(夏希) やった～ ありがとう！

(麻美) ⟨一枚一枚は 大した価値のないシールもたくさん持っておくと こういう時に役に立つ⟩

⟨では 私は…⟩ みーぽん｡

これと これで交換しない？

⟨キラキラシールに 普通のシールを付ける⟩

⟨これは悪くないはず⟩

(美穂) それだったら…｡

あーちんの フェルトのやつがいいな！

(麻美) あっ これ？ ⟨お～っと フェルト狙い⟩

⟨ん～ 正直厳しいな⟩

⟨だけど ここはスムーズに 交換しておいたほうが今後も 取引が しやすくなるはず…⟩

うん いいよ｡

(美穂) ありがとう！ えっ やった！

(麻美) ⟨こうやって私たちは 交渉術を養っていく⟩

⟨小学校高学年になると 女子の間ではプロフィール帳というものが 流行り始めた⟩

(美穂) １位は “タイタニック”だよね～ これは確定｡

２位 “マトリックス”だよね｡

(麻美) 私 “マトリックス”見てない｡

(美佐) あーちん あーちん！ プロフ書いたよ｡

(麻美) ありがとう みさごん かなっぺ｡

⟨１周目では 割とすぐ捨てたけど今回は ちゃんと取っておこう⟩

⟨ちなみに 自分の好きな男子が 好きなタイプの欄に｢秘密｣と書いていると 両思いの 可能性が高いといわれていた⟩

⟨実際どうなのかは分からない⟩

(玲奈) なっち どう思う？

(夏希) 絶対 両思いだよ｡

(美穂) 絶対そう｡

(夏希) 絶対 両思いだよね！

(麻美) そうだね｡ ⟨多分 違う⟩

(夏希) 結局 地球滅亡しなかったね｡

(美穂) そりゃあ そうでしょ｡

(麻美) なっち ノストラダムス信じてたの？

⟨こんな感じで あっという間に ６年間は過ぎていき…⟩

(美穂) 今年 ドラマ 何が一番良かった？

(麻美)“GOOD LUCK!!”は？

⟨私は予定通り 中学校に入学⟩

⟨この頃から 父を見ると無性に イライラするようになった⟩

(寛) この間のより しょっぱくない おいしい｡

(麻美) ⟨これは間違いなく 思春期特有の父親への嫌悪感⟩

うん！

(麻美) ⟨２周目はならないだろうと 思っていたけれどこれは体の反応なのか １周目同様 しっかり訪れた⟩

⟨ちなみに １周目の時は 結構つらく当たってしまい父が寂しそうにしていたのを 覚えている⟩

📺 ３人で川の字に寝ても 布団に隙間ができない裏ワザ｡

(麻美) ⟨今思うと かわいそうなことを したなぁと思うので２周目は何とか こらえたい⟩

麻美 リモコン取って｡

(麻美) あ… うん｡

はい ありがとう｡

(麻美) ⟨ただ なぜか イラっとしてしまう⟩

⟨父のことは尊敬している 感謝もしている⟩

⟨頭では分かっているのに 体がイラっとしてしまう⟩

📱(振動音)

(麻美) ⟨あ～ ヤバい 光るアンテナつけてる感じとか銀行か何かのノベルティーの ストラップつけてる感じもマジでウザい⟩

⟨どこのか分かんないジャージー はいてるのとかも超ウザい⟩

⟨そんなこと思っちゃダメなのに 親孝行したいのに⟩

麻美 どうした？

(麻美) 何が？

おしっこ？

(麻美) ううん…｡

⟨ウザ！⟩

⟨ウザいといえば 思春期関係なくウザい存在がいる⟩

(三田) ちょい ちょい｡

てい！

丸山 門倉 お前ら これ 授業に関係あんのか？ ん？

もしも～し｡

(麻美) ⟨体育会系の暴力性と文化系の ネチっこさを兼ね備えている社会科の教師⟩

⟨三田哲夫 通称｢ミタコング｣⟩

黙ってちゃ分かんないだろ！

お前たちのせいで みんなの大事な 授業時間が奪われてんだぞ！

分かってんのか？ みんなに迷惑かけてんだぞ！

(麻美) ⟨そういえば この場面１周目では黙って見てるだけしか できなかったけど…⟩

(三田) もう一回言うぞ？ みんなに…｡

(麻美) 先生｡ >> 何だ？

(麻美) それは ちょっと違う気がします｡

>> 何がだ？

(麻美) いや…｡

２人は 授業に関係ないことをしたけど授業の時間を使って怒ってるのは 先生の判断なので…｡

そのことで２人を責めるのは 違うと思います｡

⟨言ってやった⟩

何でだよ ２人が手紙を渡さなければ先生も授業を中断することは なかったわけだろ？

(麻美) だったら 後で怒ればいいじゃないですか｡

何で わざわざ授業を中断して みんなの前で怒るんですか？

>> 連帯責任だよ｡

(麻美) 連帯責任？

いいか？ 社会に出たら 誰かのミスや過ちによってみんなが迷惑するケースが たくさんあるんだよ｡

それを今のうちに学ぶための 連帯責任なんだよ｡

(麻美) でも 連帯責任にしたせいで ２人が孤立したりいじめの対象になるかも しれないじゃないですか｡

近藤は あの２人を いじめたいと思ってるのか？

(麻美) いや 私は思わないですけど｡ >> 私は思わないけど私以外の誰かは いじめたいと 思ってるってことか？

(麻美) いや そういうわけじゃないけど｡ >> じゃ 問題ないじゃないか｡

(麻美) ⟨は？ ズルっ！⟩ >> まぁ いい｡

これ以上 授業を中断するのは 先生も本意じゃないからあとは個別に話そう 後で３人 職員室に来い｡

(麻美) え？

(２人) え？

(三田) はい 続けます｡

(麻美) ⟨あ～ やめときゃよかった～！⟩

(麻美) ⟨ごめん… 私が一番迷惑をかけてしまった⟩

⟨ちなみに こういうタイプの先生って意外と 時間を置いたら 優しく諭してくるパターンかな…と思ったけど 時間を置いても しっかり説教された⟩

黙ってちゃ分かんないって 言ってんだろ いつも｡

(麻美) ⟨それはそうと 中学２年の秋になると地元にラウンドワンが誕生した⟩

(美穂) デカっ｡

(夏希) 何か地元じゃないみたい｡

(麻美) すごいね｡

⟨私にとっては久しぶりの再会⟩

⟨それまで ジャスコくらいしか 遊ぶ場所がなかったからワクワクしたのを覚えている⟩

⟨今は ただ 懐かしい⟩

(夏希) あれ あれ…｡

(麻美) ⟨放課後の過ごし方は １周目とほぼ同じで思春期を謳歌した⟩

⟨そんな中学２年のある日⟩

日本の開国を…｡

ちょい｡

てい｡

近藤 これ何だ？

(麻美) ゲームボーイアドバンスです｡

〔私 あいつにさ アドバンス没収されたからね〕

(美穂)〔ゲームボーイアドバンス？〕

(麻美)〔うん…〕

⟨１周目と同じミス⟩

⟨完全に忘れていた⟩

これ 授業に関係ないよな？

なぁ 関係ないよな～!?

(麻美) 関係ないです｡ >> だよな はい 没収｡

はい 続けます｡

(麻美) ⟨33年ぶり２度目の アドバンス没収⟩

⟨クッ… 買ったばっかりの “逆転裁判”が！⟩

⟨ちなみに ２周目の小学校くらいから気になっていたことがある⟩

⟨それは 恋愛面⟩

⟨１周目では 人並みに好きな人は できていたのだけど２周目は精神年齢が離れ過ぎて全く異性として見ることが できない⟩

⟨１周目で ひそかに好きだった加藤君も今は何とも思わない⟩

⟨１周目のこの時期は KinKi Kidsが好きだったけど２周目の今 好きなのは もっぱら真田広之⟩

⟨ちなみに ２周目の小学校時代は 全く勉強しなくても成績は 常に上位だったけど中学に入ると だんだん勉強も難しくなりさらに ﾎﾟﾃﾝｼｬﾙが高い子たちが 徐々に追い上げてきて中３になる頃には 一応 勉強はできるほうだけど学年で ７位８位を行ったり来たり するくらいにとどまった⟩

(真里) 生徒会より連絡事項があります｡

(美穂)〔真里ちゃん 覚えてる？〕

(麻美)〔宇野真里ちゃん？〕

(美穂)〔そう 生徒会長の〕

(麻美) ⟨当然 宇野真里ちゃんには 一度も勝てなかった⟩

⟨そんな感じで１周目より ちょっとだけ優秀な中学時代を終えた私は…⟩

(麻美) ⟨結局 １周目と同じ女子校に入学した⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “GLAMOROUS SKY”

(麻美) ⟨１周目では ギリギリ合格だったけど(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “GLAMOROUS SKY”

(麻美) 今回は多少 余裕を持って合格⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “GLAMOROUS SKY”

(麻美) ⟨それくらいの違いだった⟩

⟨担任の先生からは１つ上のランクの共学の高校を 受けることも勧められたけど万が一 落ちて 浪人するのも嫌だし…⟩

フォ～！

(麻美) ⟨何より 今の自分の精神年齢で共学のノリについていける自信が なかったので…⟩

(まどか) おはよう｡

(麻美) おはよう｡

あっ どうだった？ >> ん？

(麻美) うまくいった？

え～ やったじゃん！ 早速 会見だね｡ >> マジ？

(麻美) ⟨１周目と同じ女子校を 選択した⟩

⟨ちなみに１周目同様 うちのクラスではクラスメートで 彼氏ができた子がいると休み時間 囲み取材が行われる⟩

(望美) はいはいはい！

(まどか) はい｡

ちなみにどっちから告白したんですか？

(麻美) ⟨向こうだよね⟩

>> 一応… 向こうから｡

(麻美) ⟨そうそう⟩

>> じゃ そこの眼鏡の方｡

(乃亜) はい｡

えっと キ… キスはしたんですか？

(麻美) ⟨したよね⟩ >> それは… まぁ…｡

(麻美) ⟨言ってあげて⟩

>> はい｡

(麻美) ⟨おう～ いいねぇ 青春だね⟩

では お時間となりましたので 終了とさせていただきます｡

⟨この１か月後 同じ場所で涙の破局会見が行われることも 知っているけれどもちろん そんなことは 言えるはずもない⟩

(麻美) ⟨大学は同じ大学だけど難易度の高い ６年制の薬学部を受験し見事 合格⟩

⟨これが 今のところ ２周目で一番の変化⟩

⟨ちなみに １周目のこの時期私には 付き合っていた同級生がいて⟩

⟨それが彼…⟩

⟨田邊 勝⟩

⟨彼とは 大学１年の秋から 付き合い始め…⟩

〔な～に～ やっちまった… あれじゃん ｢ｸｰﾙﾎﾟｺ｡｣じゃん〕

⟨卒業後も２年くらい続いた⟩

⟨今回は学部が違うので 関わることもない⟩

⟨私にとっては元カレだけど向こうは 私の名前すら知らない⟩

〔すごくない？〕

(田邊)〔今だね 今 今〕

(麻美)〔まー君 撮って〕 >> 〔ＯＫ ＯＫ〕

(麻美) ⟨あの時 過ごした時間も…⟩ >> 〔はい チーズ〕

〔いいの 買えたね～〕

(麻美)〔あした 着ようかな〕 >> 〔いいじゃん〕

(麻美)〔食べる？〕 >> 〔あっ いい？〕

(麻美) ⟨交わした言葉も全て過去ですら なくなってしまった⟩

⟨ただ 彼とは まぁまぁ嫌な別れ方をしたのでむしろ 好都合⟩

⟨え～ 補足すると 彼はこの後 ３年の夏くらいからギャンブルにハマり始め 授業もサボりがちになる⟩

⟨卒業後も そのだらしなさから 仕事は長続きせず職を転々とする⟩

⟨私も５万円貸したまま 別れて うやむやになった⟩

〔何か ごめんね〕

(麻美) ⟨あの時 貸した５万円も…⟩

⟨過去ですら なくなってしまった⟩

⟨それは 不都合⟩

チッ｡

⟨そんなことより このタイミングで予定通りみーぽんが免許を取得し…⟩

みーぽんが運転してるの不思議｡

(夏希) いや 感慨深いよ あのみーぽんがだよ？

(麻美) あのみーぽんが運転してんだもん｡

(夏希) あのみーぽんが 時速40kmでさ｡

(麻美) あのみーぽんが法定速度をさ｡

(美穂) どのみーぽんのこと 言ってんのよ？

(夏希:麻美) あのみーぽん アハハ…！

(麻美) ⟨私たちの行動範囲は 劇的に広がった⟩

これで うちらの行動範囲も 一気に広がるよね｡

(夏希) 広がる｡

何かさ “ドラクエ”で 船取った時の感覚だよね｡

(麻美) へぇ～ そうなの？

(美穂) あっ 分かんない｡

私 “ドラクエ”やんないから｡

(麻美) 私も｡

(夏希) ２人ともＦＦ派？

(麻美)“ＦＦ”も やらない｡

(美穂) 私も どっち派でもない｡

(夏希) えっ そうなの？

(美穂) うん 強いて言うなら 犬派｡

(夏希) 何の話？

(麻美) 私 しょうゆ派｡

(美穂) 目玉焼き？

(麻美) そう｡

(美穂) 私も しょうゆ なっちは？

(夏希) 私？

(麻美) なっちは ドラクエ派でしょ？

(夏希) しょうゆ派だよ｡

(ｶｰｽﾃﾚｵ)♪～ “ﾎﾟﾘﾘｽﾞﾑ”

(ｶｰｽﾃﾚｵ)♪～ “ﾎﾟﾘﾘｽﾞﾑ”

(美穂) トラック来た｡

(麻美) ⟨３人の初ドライブは 特に目的地も決まらないまま結局 たどり着いた先は地元から 車で２時間の場所にあるラウンドワン⟩

⟨知らない街の知ってる施設⟩

⟨しかも地元のより 若干 小規模⟩

どうですか？ 初めての この ロングドライブをした気持ちは｡

(美穂) 何も言えねえ！

(麻美) ⟨だけど １周目も２周目も10代は この日が 一番楽しかった気がする⟩

コォ～！

(美穂) あっ でも いいかも｡

お～！

(３人) あぁ～！

(麻美) ⟨何なら２周目のほうが はしゃいでいる⟩

(麻美) ⟨２度目の成人式⟩

なっち みーぽん ごめん お待たせ～｡

(美穂) いいね～｡

(麻美) めっちゃかわいい！

(美穂) 似合ってる｡

(麻美) 盛ってる 盛り盛り｡

両方 着けたんだ｡

(夏希) そう 両方着けた｡

(麻美) 黄色がいいかも いい いい｡

(美穂) 鮮やかで｡

(市長) 新成人の皆さん おめでとうございます｡

輝かしい未来を切り開いて…｡

(男) おい！ そうじゃねえだろ ジジイ！

つまんねえ話 してんじゃねえぞ｡

(男) よっ 待ってました～！

ウェ～イ！ ウェ～イ！

(美穂) ああいう人たちって ホントにいるんだね｡

(夏希) ニュースでしか 見たことなかったよね｡

(麻美) ⟨当然だけど １周目と同じ暴れ方で同じ取り押さえられ方だった⟩

(夏希) あっ 連れてかれちゃった｡

(麻美) 考えたらさあのために わざわざ早起きして着付けしてセットして 来てるんだよね｡

(美穂) そうだよ ちゃんと 目覚ましかけてんだよ｡

(夏希) 一番 この日に懸けてるよね｡

(麻美) そう思うと泣けるね～｡

おい！ まだ終わってねえよ！

(麻美) ⟨来世は 微生物かな⟩

⟨成人式の後 いったん着替えて 私は中学時代の同級生と カラオケに集合した⟩

(美佐) せ～の！

(一同) カンパ～イ！

(麻美) ⟨１周目の 中学時代に好きだった加藤君⟩

⟨２周目で 好きにならなかったのは…⟩

(加藤) 〔へぇ へぇ…！ 20へぇ！〕

(麻美) ⟨この姿を知ってたから っていうのもあるかもしれない⟩

(加藤) 誰？ 誰？

(美佐) 福ちゃん？

(加藤) マジで？

(一同) イェ～イ！

♪～ hoh hoh…

♪～ イケナイ太陽

♪～ Na Na

(麻美) ⟨福ちゃん 10年後 ここでバイトしてるなんて夢にも思わないだろうな⟩

⟨１周目は上手に聴こえた 福ちゃんの歌唱力もこうやって冷静に聴くと そうでもない⟩

♪～ チョットでいいから 見せてくれないか

♪～ お前のｾｸｼｰ･ﾌｪﾛﾓﾝで オレ メロメロ

(麻美) ⟨普通中の普通⟩

⟨っていうか⟩

(夏希)〔そういえばさ 成人式の後も ここ来なかったっけ？〕

(麻美)〔来た〕

(美穂)〔でさ 福ちゃんがさ何だっけ “粉雪”か何か歌ってさみんな ｢めっちゃ うま！｣って なったよね〕

(麻美)〔歌ってたね〕

〔“粉雪”だったっけ？〕

(美穂)〔違ったっけ？〕

〔“粉雪”系の そっち系だった…〕

(麻美)〔何か そっち系だった〕

♪～ オレは イケナイ太陽

(麻美) ⟨“粉雪”じゃなければ そっち系でもない⟩

♪～ Na Na

(拍手)

(加藤) すげぇ！

(夏希) 福ちゃん めっちゃうまいじゃん｡

(静香) 超良かった！

(加藤) 福ちゃん マジでプロになれんじゃね？

(美佐) そこらへんのプロより うまいよ！

マジで？

(麻美) ⟨福ちゃん だまされないで⟩

⟨福ちゃんは そこらへんの 大学生くらいだよ⟩

実は俺 音楽やろうと思っててさ｡

(静香) えっ そうなの？

(美佐) え～！ すごいじゃん！

(加藤) マジで絶対売れるよ｡

(静香) 私も売れると思う｡

ホント？ いや マジで俺音楽業界 変えてやろうと思っててさ｡

(静香) 福ちゃんなら いけるよ！

(加藤) 俺ら 保証する｡

(美穂) 私も応援する！

(夏希) あっ 私もＣＤ買う｡

(美穂) あっ 買う買う！ めっちゃ宣伝するわ｡

>> ありがとう｡

(麻美) ⟨福ちゃん だまされないで⟩

⟨誰もＣＤ買わないし 福ちゃんに 音楽業界は変えられないよ⟩

⟨ていうか 待って⟩

(美穂)〔ていうかね 私 そんなチヤホヤしてないよ〕

(夏希)〔してたでしょ〕

(美穂)〔うまいなとは思ったけどさすがに厳しいでしょと 思ってた〕

(夏希)〔ホントに？〕

(美穂) 福ちゃんなら絶対 東京ドームいけるよ｡

(夏希) いける｡

(麻美) ⟨めっちゃチヤホヤ してんじゃん⟩

(夏希) あっ 私 今のうちサインもらっとこ｡

ありがとうございます｡

見て サインもらった｡

(麻美) ⟨福ちゃんこの子 すぐにサインなくすよ⟩

(美穂) 私も くださ～い！

(麻美) ⟨お前も もらってんじゃねえか⟩

(美佐) すみません お願いします｡

(夏希)〔うちらにも多少 責任あるよね〕

(麻美)〔そうだねあの時 止めときゃよかったね〕

(夏希)〔今思えばね〕

(麻美) ⟨ここは やっぱり止めるべきか…⟩

⟨そうすれば 福ちゃんはしーちゃんとも 離婚しなくて済むし30過ぎて バイトを掛け持ちしなくて済む⟩

⟨あと 徳も積める⟩

＼これ 好き！／

(麻美) ⟨ただ どう説得するかが問題⟩

♪～ さっきとても素敵なものを

♪～ 拾って僕は喜んでいた

♪～ ふと気が付いて

♪～ 横に目をやると

(麻美) ⟨よし⟩

♪～ 誰かが

＼あれ？／

(美穂) 何？

(麻美) 盛り上がってるところ ごめん｡

ちょっと この場を借りて言わせてもらいたいことが あります｡

(加藤) 何？ 怖い 怖い｡

(麻美) 福ちゃん｡

私は幼なじみとして 福ちゃんには 幸せになってもらいたいからあえて厳しいことを言うね｡

え？

(麻美) 福ちゃん 夢を持つことはステキなことだとは 思うんだけど私は正直 ミュージシャンになるのはやめたほうがいいと思う｡

(美佐) あーちん どうしたの？

(麻美) 何かさ さっきから みんな 口をそろえて｢福ちゃんなら絶対売れると思う｣ とか言ってるけどそれってさ 自分の身内から スターが出てほしいっていう希望的観測が だいぶ入ってるでしょ？

ねっ？

そりゃあね 福ちゃんは 昔から うちらの中では人気者だし 歌もうまいけどでも あくまでも この 狭いコミュニティーの中だからそう見えるだけで プロとして通用するかどうかは別問題だと思うんだよね｡

もちろん 福ちゃんの人生だから やるのは自由だけど私は 絶対うまくいかないと思うし最終的には 後悔もすると思う｡

福ちゃんが その覚悟を持って その上で それでも音楽がやりたいっていうんだったら やればいいと思う｡

でも 売れることが前提で 言ってるのであればやめたほうがいいと思う｡

絶対に… 売れないから｡

(麻美) みんなもさ そうやって 福ちゃんの背中押すんだったらたとえ 一生 売れなくても最後まで責任を持って 応援してあげてね｡

特に しーちゃん｡

(静香) え？

(麻美) 一生 支える覚悟がないなら軽はずみに 背中押しちゃダメだよ｡

しーちゃんのためにもね｡ >> えっ？

どういうこと？

(麻美) 私からは以上です｡

(麻美) ⟨い～やぁ～ 無理無理無理…⟩

⟨リスクが高過ぎる⟩

♪～ さっきとても素敵なものを

(麻美) ⟨取りあえず 福ちゃんが歌い終わってから個人的に説得しよう⟩

⟨あ…⟩

(夏希)〔福ちゃんはね バイト先の子と付き合い始めてできちゃった結婚したみたい〕

(美穂:麻美)〔え～！〕

(美穂)〔福ちゃん パパなの？〕

(夏希)〔で それが きっかけで 音楽も きっぱりやめて今はバイト掛け持ちしながら 家族 養ってんだって〕

(麻美) ⟨今 止めたら 新しい奥さんとも 出会わないし子供も 生まれなくなるってことだ⟩

(久美子)〔麻美ちゃん〕

(寛)〔麻美～〕

(久美子)〔生まれてきてくれて ありがとね～〕

(寛)〔ありがとね～〕

(福田) ♪～ 素敵なものを今の僕以上に

♪～ 必要としている人だと

♪～ 言う事が分かった

♪～ 惜しいような気もしたけど

♪～ 僕はそれをあげる事にした

♪～ きっとまたこの先 探していれば

♪～ もっと素敵なものが 見つかるだろう

♪～ その人は何度もありがとうと

♪～ 嬉しそうに僕に笑ってくれた

(麻美) おぉ～！ ＼ヤバい めっちゃいい／

＼感動した／

(麻美) ⟨それはそうと… やっぱ “粉雪”じゃねえし⟩

(加藤)♪～ 粉雪 ねえ

♪～ 心まで白く

(麻美) ⟨お前が“粉雪”だったのかよ⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “ひまわりの約束”

(麻美) ⟨大学卒業後 私は 薬剤師になった⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “ひまわりの約束”

(麻美) ⟨元々は “ナースのお仕事”の影響で(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “ひまわりの約束”

(麻美) 看護師に憧れていたのだけど(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “ひまわりの約束”

(麻美) 血を見るのが苦手なので(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “ひまわりの約束”

(麻美) 同じ医療関係で 薬剤師の道を選んだ⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “ひまわりの約束”

(麻美) ⟨とはいえ 決して 楽な道のりではなかった⟩

⟨薬学部で６年間 必死で勉強し国家試験に合格した後合同研修で４週間薬の基礎知識や患者さんとの 会話などを徹底的に学びそこから それぞれの薬局に配属される⟩

⟨私は 自宅から電車で20分の 調剤薬局に配属された⟩

⟨朝 ８時45分出勤⟩

⟨お店の鍵を開けるのは 当番制⟩

⟨白衣の下は 店舗にもよるが基本的に襟付きのシャツで 下はパンツスタイル⟩

⟨お店に入ると まずは 全ての機械の電源を入れる⟩

⟨その後 開店に向けて 薬の補充をしたり湿布をまとめたりして… ９時開店⟩

(事務員) こんにちは｡

(麻美) ⟨ちなみに 調剤薬局は ｢こんにちは｣⟩

⟨患者さんから事務員さんが 処方箋を受け取るとそれを基に 患者さんに渡す書類を作る⟩

⟨薬剤師は処方箋を見ながら 薬を集めてカゴに入れる⟩

⟨それを監査者と呼ばれる 別の薬剤師がチェックし患者さんにお薬を出す⟩

⟨そして お会計⟩

お大事にどうぞ｡

(患者) ありがとうございます｡

(麻美) ⟨会話の内容などをメモして患者の情報を ファイリングしておく⟩

⟨というのが基本的な流れ⟩

⟨このように調剤薬局は ただ薬を渡すだけではなく症状に適した薬が 正しく処方されているかなどを念入りにチェックするのでお薬を渡すために どうしても時間がかかる⟩

すいません｡

(麻美) はい｡

ねぇ まだかな？

(麻美) もう少々 お待ちいただけますか？ >> ちょっと遅くない？

薬 渡すだけでしょ｡

(麻美) ⟨当然 イライラする患者さんも 少なくない⟩

もう 何の確認だよ｡

処方箋に書いてあんだから それを出せばいいだけだろ？

(麻美) ⟨ただ…⟩

(市民)〔何とか ならないの？〕

(麻美) ⟨市役所の窓口でキツいクレーム対応を 経験してきた私にとってこの程度のクレームは 何てことない⟩

⟨お昼は 暇な時間を見つけて 休憩所で食べる⟩

📱(受信音)

📱(受信音)

📱(受信音)

📱(受信音)

📱(受信音)

(チャイム)

(麻美) ⟨店内には お店が忙しいことを 休憩所に伝えるボタンがあってこの音が鳴ると すぐに戻らなければいけない⟩

⟨ちなみに このボタンの名称は特になく私たちは そのまま ｢忙しいボタン｣と呼んでいる⟩

(ドアチャイム)

(麻美) ⟨仕事帰りに ダッシュでイオンに寄り無事 父へのプレゼントを購入⟩

⟨今年はマッサージ器⟩

⟨父は 肩凝…⟩

〔丸山 門倉 お前ら これ 授業に関係あんのか？〕

(麻美) ⟨ミタコング⟩

(麻美) ⟨他の先生なら 声をかけたのだけど彼には 嫌な思い出しかないので取りあえず 見つからないようにしながら…⟩

📱(操作音)

(麻美) ⟨なっちと みーぽんに報告⟩

(女性) ちょっと！

この人に触られたんですけど！

(三田) え？

(麻美) ⟨え？⟩

(三田) いや 触ってないですけど｡ >> 触ってましたよね？

とぼけないでくださいよ｡

(三田) とぼけてるとかじゃなくて 触ってないから｡

(女性) すいません すぐに警察呼んでください！

(三田) はぁ？

(女性) 触りましたよね？

〔もしも～し〕

(麻美) ⟨あのミタコングが…⟩

〔黙ってちゃ分かんないだろ！〕

触ってないですから 何言ってるんですか｡

次の駅で一緒に降りましょう｡

(三田) 降りるとかじゃなくて…｡

(夏希)〔ミタコング 今だったら 絶対 問題になるよね〕

(美穂)〔あ～〕

(麻美)〔なるね～〕

(美穂)〔いや 辞めたじゃん〕

(麻美)〔えっ マジで？〕

(美穂)〔知らない？ だいぶ前だよ 何か問題起こしたとかで〕

(ドアチャイム)

(麻美) ⟨彼は これで職を失う⟩

⟨２周目で 電車通勤になったことで私は その現場に 遭遇することになった⟩

⟨ただ…⟩

⟨彼は触っていない⟩

(三田) 〔これ 授業に関係ないよな？〕

〔なぁ 関係ないよな～!?〕

(麻美) ⟨正直 顔も見たくないくらい 大嫌いだったけど…⟩

いやいやいや…｡

(麻美) ⟨彼は… 触っていない⟩

あの すいません すいません あの｡

この方 触ってないです｡

(駅員) ホントですか？

(麻美) 私 見える所に座ってたんで間違いないです｡

あ… もしかしたら 動画に写ってるかも｡

(駅員) 動画あるんですか？

(麻美) はい…｡

⟨なっちと みーぽんに 送ろうと思って撮ったやつ⟩

ほら これだと触れないんで｡

(駅員) ホントだ…｡

あ～ 触ってる！ この人が犯人だ｡

(女性) ホントだ｡ 📱 ちょっと！

📱 この人に触られたんですけど！

(麻美) ⟨なんと そこに写っていたのは…⟩

〔谷口課長 すみません〕

⟨市役所時代の上司 谷口課長だった⟩

(駅員) この人 もう行っちゃいましたよね？

(麻美) 多分｡

これって もう 捕まえられないんですか？

動画を警察に提出すれば 動いてもらえるとは思いますけど｡

この人が誰なのか特定するのは 時間かかりそうですね｡

(麻美) あの｡

私 この人 知ってます｡ >> お知り合いですか？

(麻美) いいえ この人 市役所に勤めてて 何度か見たことあるんで｡

(駅員) ホントですか？

(麻美) 間違いないです｡

あの 申し訳ありませんでした｡

何て お詫びしたらいいのか｡

いいえ 取りあえず あの… 疑いが晴れてよかったです｡

(駅員) こちらこそ すいませんでした｡

(麻美) ⟨この後 警察が来て 私は動画を提出した⟩

いやぁ ホントに ありがとうございました｡

近藤… だよな？

(麻美) あっ そうです｡ >> やっぱり そうだ｡

久しぶりだな｡

(麻美) お久しぶりです｡

私も三田先生だっていうのは 気付いてたんですけどあそこで 教え子だって言っちゃうとかばってるって 勘違いされちゃうんであえて黙ってました｡ >> そうだね ありがとう｡

(麻美) いえいえ｡ >> ところでさ何で動画 回してたの？

(麻美) あの… 電車で 三田先生をお見かけしてこう うれしくなっちゃって 同級生に伝えようと思ってつい…｡ >> ん？

それって 盗撮だよな？

(麻美) そうですね… すいません｡

まぁ まぁ でも うん… 今回は それに助けられたわけだからな｡

むしろ撮ってくれて ありがとう｡

ハハハ…｡

今 何やってんだ？

(麻美) 薬剤師やってます｡

>> 薬剤師？

(麻美) ⟨この後 警察は真犯人である谷口さんに 任意同行を求め谷口さんは 事情聴取の結果罪を認めたらしい⟩

♪～ “僕が一番欲しかったもの”

(麻美) ⟨後日 このことは 地元の新聞に大きく載っていた⟩

⟨お世話になった上司だったので 複雑な気持ちだった⟩

>> これ 最高だね｡

(麻美) ホント？ よかった｡

(遥) 頭は お風呂でやるやつだからね｡

(久美子) 麻美 お客さん！

(麻美) は～い｡

誰だろ？

は～い｡

三田先生｡ >> おぉ～｡

この間はホントにありがとう｡

(麻美) いやいや｡

いやぁ ホント助かったよ～｡

(久美子) 大変だったみたいね｡

実は私 あの おととし 結婚しまして今ね 妻のお腹に 赤ちゃんがおりまして｡

(久美子) そうですか おめでとうございます｡

(三田) ありがとうございます｡

そんな時に こんなことに なっちゃったもんだからホントに焦っちゃいまして ええ｡

これ… お礼と言っちゃ 変なんですけど よかったら｡

(麻美) ありがとうございます｡ >> ご家族で召し上がってください｡

(麻美) ずっしり｡ >> よかったね すみません｡

あと これ｡

♪～

ハハハ…｡

すぐ返そうと思ってたんだけども すっかり忘れてて 申し訳ない｡

(麻美) まだ持っててくださったんですね｡

>> ずっと大事にしまってたよ｡

(麻美) そうなんですね｡

>> 麻美の？

(三田) ええ｡

あ そう｡

(三田) 学校で｡

📺 気を付けてもらわないと｡ 📺 芝崎次長｡

(麻美) ほら やっぱ 塚地 出てきた｡

(遥) ホントだ｡

(麻美) 絶対 塚地 出てくる 最初に｡ >> それ そんなに気持ちいいの？

ああ 天国｡

(遥) 頭 お風呂でやるやつだからね｡

ああ｡ >> ねぇ お母さんの誕生日もあれが欲しい｡

(遥) 借りたらいいじゃん｡

(久美子) お父さん 貸してくれる？

(寛) いいよ｡

(遥) よかったじゃん｡

(久美子) 珍しい｡

(遥) 珍しいね｡

(久美子) お母さん あれも欲しい こういうの ほら｡

(麻美) ヤ～バ｡

⟨10年ぶりの“逆転裁判”⟩

(久美子) お父さん ダメらしいよ そこじゃ｡

お風呂でやるんだって それ｡

(寛) 分かってるよ｡

(麻美) ⟨クリアされてる…⟩

⟨あいつ やってたな⟩

♪～